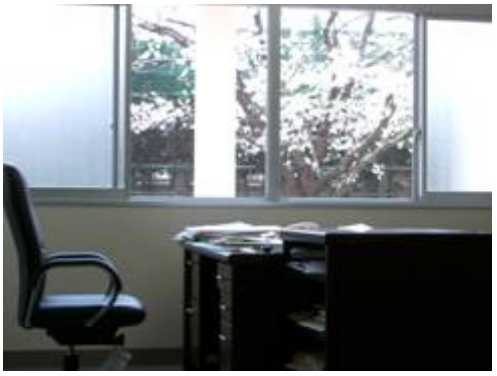
2年目に入った研究科長・学部長

人間文化研究科長・人文社会学部長になって2年目を迎えた。昨年5月1日のレポートでは、最初の教授会の前日に持病の腰痛となり、滅多にないような歯痛に悩まされ、痛々しい船出で先が思いやられると書いている。なんとか1年が経過して(なんと早かったことか)、2年目の教授会の冒頭で「もう1年だけ」奮闘努力すると所信を述べた。



写真は学部長室から撮った窓から見える美しい桜である。昨年は桜の開花が早かったこともあるが、桜を眺める余裕などなかった。今年は入学式後が見ごろとなり、こうして窓を開けておくと、どんどん桜が舞い込んでくる。朝が早いので、とにかく学部長室に来て冬でも窓を開けることにしている。締め切られていることが多かった部屋の「臭い」が気になることもあったが。

今年の2月24日付けのレポートでも書いたが、この1年間は「法人化」準備に追われた。中期構想・中期計画づくりを中心に、法人化準備委員会などの会議を繰り返してきた。最初はうまく行かず、メールを出しても気が「めーる」ばかりであった。会議を定期的にやり、しつこく問題を投げかけるなかで、目に見える「成果」も出すことができた。いくつかあるが、この4月に設置できた人間文化研究所があげられる。予算は実質的につかなかったが、こうして部屋を確保して、若い先生と研究員などを中心に急ピッチで整備されつつある。写真の看板は、これから発展する期待をこめて、とにかく大きなサイズにした。教授会などで研究所が「看板倒れ」にならないか(しっかりと固定してあるが)、と例の「調子」で訴えた。

(4月17日　記)